

## ＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和2年10月分）

### 【製造業】生産の持ち直しの動きがみられる

- 製造業は、8月の鉱工業生産指数では、主な産業の多くで上昇した。ヒアリングにおいては、生産は回復傾向にあるとする声が目立ったが、アメリカ大統領選挙の結果等が今後の業績に与える影響を懸念する声もあった。

### 【地場産業】生産の落ち込みが続いている

- 地場産業は、8月の鉱工業生産指数では、家具、繊維工業を除いて低下した。ヒアリングにおいては、春夏と比較してさらに悪い状況にあるが中国向けが活発になってきたとの声や、DIY用の軽いレンガ風タイルの需要が伸びており、ECモールや自社ECサイトの受注が好調であるとの声もあった。

### 【設備投資】国内向けの落ち込みが長期化しているが、海外向けは持ち直しの動きがみられる

- 設備投資は、9月の金属工作機械受注額について、全体と国内向けは前年同月を下回ったものの、海外向けでは23ヶ月ぶりに前年を上回った。ヒアリングにおいては、補助金を活用して設備投資を行う動きが見られた。

### 【個人消費】8か月ぶりに前年同月を下回った

- 個人消費は、小売店の9月の販売額について、消費税増税前の駆け込み需要が見られた前年同月を下回った。ヒアリングにおいては、客足減・売上増が続き、まとめ買いの消費行動が見られるとの声があった。

### 【観光】持ち直しの動きがみられる

- 観光は、新型コロナウイルスの影響により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回ったものの、前月値よりもそれぞれ+24.9ポイント、+14.8ポイントとなるなど回復しつつある。宿泊施設からのヒアリングからも、特に週末は高稼働となるなど、GOTOトラベル事業の効果が表れ始めている。

### 【資金繰り】旺盛な資金需要が続くが、足元の借入申込は落ち着きつつある

- 企業の資金繰りは、9月の制度融資実績で、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、ウィズコロナを意識した設備投資の動きが見られた。

### 【雇用】雇用環境の改善がみられたものの、先行きは不透明である

- 雇用面は、9月の有効求人倍率は、1.20倍と9ヶ月ぶりに上昇した。ヒアリングにおいては、積極的な採用に取り組む企業がある一方で新たな雇用に慎重になっている企業もあり、雇用動向にはばらつきが見られる。

### 【景気動向】

- 8月の景気動向指数（一致指数）は上昇したものの、9月の中小企業の景況感は低下した。